

# ～茨城県景気ウォッチャー調査結果 (平成21年12月調査)～

(企画分析グループ)  
電話：029-301-2642

**【調査結果の概要】** (〔調査期間：平成21年12月1日～12月31日〕, 〔回答率：96.3% (300名中289名より回答)〕)

- ◆ 全体の現状判断DIは33.0となり前期（平成21年9月）比4.8ポイント低下，また先行き判断DIも34.8と前期比10.0ポイント低下し，横ばいを表す50を下回りましたので，引き続き景気は下降局面にあります。

〔【参考】これまでの最低値 現状判断DI 平成21年3月の18.5  
先行き判断DI 平成20年12月の19.7〕

- ◆ 地域別の現状判断DIは，**県北地域を除くすべての地域で低下し，横ばいを表す50を下回りました。**

景気現状判断DI			景気先行き判断DI			(注)「変化傾向」の説明：DI値50%超 → DI値50 → DI値50未満 ↘
区 分	( )は前回調査との比較	変化傾向 (DI値50を基準)	区 分	( )は前回調査との比較	変化傾向 (DI値50を基準)	
県全体	33.0 (− 4.8)	↘ (10期連続)	県全体	34.8 (−10.0)	↘ (9期連続)	※DI (Diffusion Index)  景気動向を判断するために使用される指標の1つであり，景気の方 向性 (景気が上向きか下向きか) を みるもので，50が横ばいを表して います。  茨城県景気ウォッチャー調査で は，回答を5つの区分ごとに点数で 表し，その点数を回答構成比 (%) で乗じてDIを算出しています。
県 北	39.0 (+ 3.6)	↘ (11期連続)	県 北	35.6 (− 9.0)	↘ (9期連続)	
県 央	33.9 (− 3.4)	↘ (10期連続)	県 央	37.7 (− 4.2)	↘ (10期連続)	
鹿 行	28.1 (− 8.7)	↘ (9期連続)	鹿 行	36.8 (− 7.9)	↘ (9期連続)	
県 南	34.6 (− 5.6)	↘ (9期連続)	県 南	33.8 (−11.3)	↘ (9期連続)	
県 西	28.9 (−10.5)	↘ (10期連続)	県 西	29.8 (−18.1)	↘ (11期連続)	

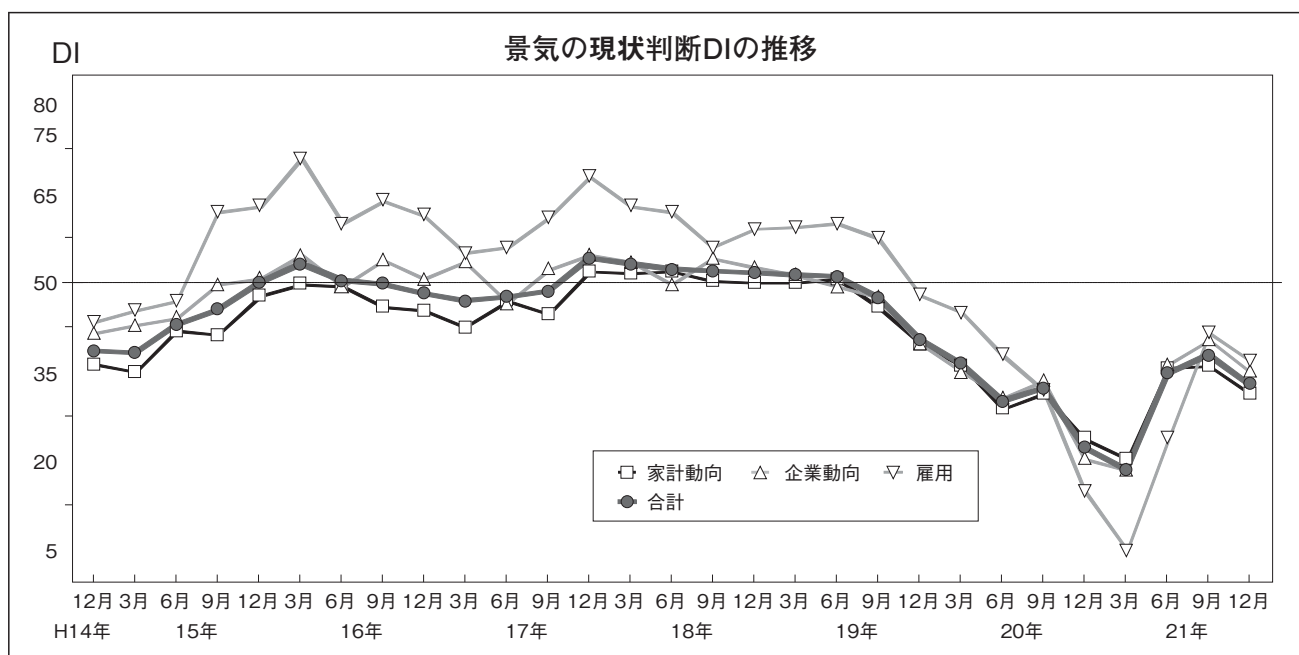
## 1 調査の目的

- ・ 経済の第一線で働いている方々から，景気に関する生の情報を得ます。
- ・ その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに，迅速に公表します。
- ・ 県や市町村のきめ細かな施策立案や，経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

## 2 調査の概要

- ・ 調査客体数…県内5地域（県北，県央，鹿行，県南，県西）ごとに60名，計300名です。
- ・ 調査内容…景気の現状及び先行きの判断（「良」「やや良」「変わらない」「やや悪」「悪」の5つから選択）とその判断理由（コメント）を質問します。
- ・ 調査時期…四半期（6，9，12，3月）ごとに実施し，翌月公表します。

【現状判断DI (県全体)】



分野	調査年月	平成20年 12月	平成21年 3月	平成21年 6月	平成21年 9月	平成21年 12月
合 計		22.3	18.5	34.8	37.8	33.0
家計動向関連		24.0	20.4	35.6	36.1	31.4
小 売 関 連		19.9	17.5	38.5	35.8	27.0
飲 食 関 連		25.0	26.4	31.6	36.3	33.8
サ ー ビ ス 関 連		28.4	21.3	33.8	35.3	33.3
住 宅 関 連		16.7	22.2	36.1	44.4	44.4
企業動向関連		20.6	18.5	36.3	40.5	35.2
農 林 水 産 業		40.6	21.9	37.5	46.9	40.6
製 造 業		17.6	18.5	35.6	40.8	39.1
非 製 造 業		20.2	17.7	37.1	38.3	27.6
雇用 関 連		15.0	5.0	24.0	41.7	37.0

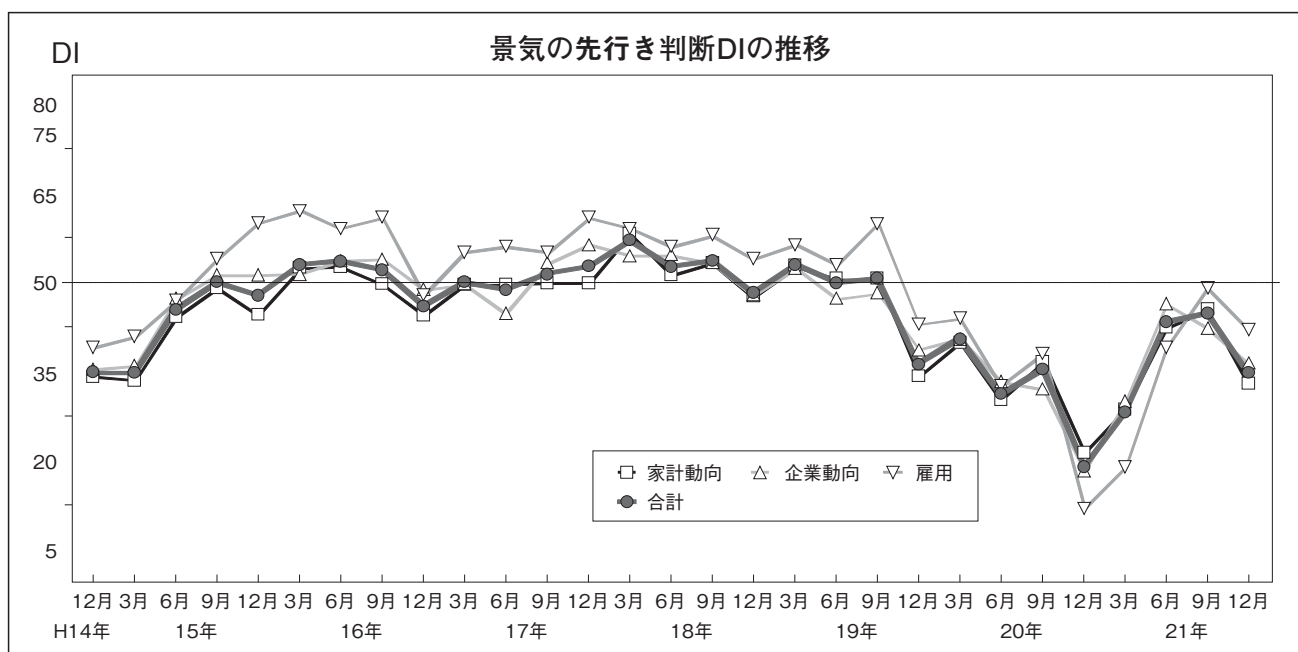
3か月前と比較した景気の現状判断DIは、前期（9月調査）比4.8ポイント低下して33.0となり、横ばいを表す50を10期連続で下回りました。

「家計動向関連DI」は、前期比4.7ポイント低下し、10期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前期比5.3ポイント低下し、11期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前期比4.7ポイント低下し、9期連続で50を下回りました。

＜景気ウォッチャーの主なコメント＞

- ・暖冬の傾向にあり、冬物商品の売上に影響は出ているが、エコポイント対象商品を中心に購入意欲は高い（売れている）。（家電販売店）
- ・「政権は変わったものの何も変わらない」このような内容の話が多くなってきた。現実の厳しい様子がうかがえる。ともあれ政治への期待度は高い様を感じる。（タクシー運転手）
- ・製造業において生産がやや持ち直している企業もある。（人材派遣業）
- ・中小企業の業績が悪化傾向にあり、返済に苦慮する事業者が増加している為、借入金の条件変更相談が増えてきている。（金融業）
- ・同じ業種でも取扱う商品や取引先によって回復基調にある会社もあるが、全体の中で少数である。（求人开拓員）

## 【先行き判断DI（県全体）】



分野	調査年月	平成20年 12月	平成21年 3月	平成21年 6月	平成21年 9月	平成21年 12月
合 計		19.7	28.2	43.3	44.8	34.8
家計動向関連		21.4	28.6	42.4	45.5	33.0
小 売 関 連		19.5	28.0	44.4	43.2	34.5
飲 食 関 連		21.1	36.1	43.4	51.3	27.5
サ ー ビ ス 関 連		22.2	26.9	40.3	45.6	30.8
住 宅 関 連		30.6	33.3	41.7	50.0	52.8
企業動向関連		18.3	30.0	46.4	42.3	36.4
農 林 水 産 業		28.1	53.1	59.4	53.1	40.6
製 造 業		18.1	32.1	43.9	39.7	37.5
非 製 造 業		16.1	21.0	46.8	43.3	33.6
雇 用 関 連		12.0	19.0	39.0	49.0	42.0

3か月先の景気の先行き判断DIは、前期（9月調査）比10.0ポイント低下して**34.8**となり、**横ばいを表す50を9期連続で下回りました。**

「家計動向関連DI」は、前期比12.5ポイント低下し、9期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前期比5.9ポイント低下し、11期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前期比7.0ポイント低下し、9期連続で50を下回りました。

＜景気ウォッチャーの主なコメント＞

- ・ 3月11日茨城空港開港による韓国旅行やチャーター便利用の海外旅行拡大に期待したい。(旅行代理店)
- ・ 円高・株安・デフレの傾向は今後も継続する可能性が高いと思われ、早期に企業収益や所得の改善が進むとは考えにくい。(百貨店、総合スーパー)
- ・ 新政権による事業仕訳による公共事業費の削減等により影響が出てくると思われる。(製造業(窯業・土石製品))
- ・ 製造業において受注量は以前より増加しているものの今後の見通しがつかないとしている事業所が多い。(公共職業安定所)

(注) 本調査の結果報告書(全文)は「いばらき統計情報ネットワーク」に掲載しておりますので、ご参照ください(PDF形式)。

URL : <http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/2112/gaiyou.html>